

1 教育方針

(1) 教育目標

一、知性を愛し、自ら学ぶ喜びに燃えよう 一、視野を広め、豊かな事故の創造に努めよう 一、心身を鍛え、たくましい覇気と行動に徹しよう

(2) 校訓 友愛、自由、平等、団結

2 学校経営

(1) 目指す学校像 知徳体の調和のとれた「地域の未来をひらく人材」を育成する学校

(2) 育成する生徒像 ①自ら学ぶ生徒 ②人間性豊かな生徒 ③心身を磨く遅い生徒

(3) ありたい教職員像

子供たちへの愛情にあふれ、豊かな人間性を備えた教職員

同僚性を育み、自らの専門性を高める教職員

前向きでチャレンジ精神にあふれた教職員



働き蜂 勤勞
羽根 勉學
胴体 高等学校

3 学校自己評価

★ 評価はABCの3段階
A: 良い B: 概ね達成 C: 改善が必要

観点	重点目標	具体的方策	方策の評価指標	年度総括		項目	評価	資質能力の数値化への取り組み状況
				指標の結果	評価			
指導力向上	教務部	生徒の実態を把握し、個に応じた最適な学習の提供に向けて教材研究力を向上させ、授業を改善する	①生徒の授業アンケートを2回行う。 ②探究型授業や個別最適な学びに関する研究を進め、授業改善を進める。	アンケートの肯定的な回答が過半数。各教科から授業研究の計画、実施報告を求める。	授業評価アンケートでどの項目も肯定的な回答となっている。各教科で授業研究が実施された。	C	▼個別最適な学びや観点別評価についてはさらに研究を進め、授業改善を進めていく必要がある。	① B
	教務部	教科毎に、協働的な学びの充実、深い学びの実現に向け、ICT活用や体験型学習等の研究を進める(効果的な指導法の共有)	①教科毎にICTや地域資源の活用を含む補助教材の有効な活用を図る。 ②学習センターのAV機器等を適切に配置し、活用しやすい環境づくりを行う。	①生徒の授業評価で肯定的な回答が80%以上 ②学習センターを活用した授業数の増加(教員対象アンケートによる)	①各教科ともほとんどの項目で肯定的な回答が80%超 ②学セン利用状況 R4:65回、R5:151回(学センでYELLが使えるようになった)	B	○先生方のICT機器を活用した授業の取組みが進んできている。 ▼生徒がPCを情報処理ツールとして効果的に活用する授業の研究が必要 ▼学センのwi-fi環境の整備(安定して届くように)	
	教務部	思考力・判断力・表現力を効果的に育むために、学習成果を発表する機会を積極的に提供するとともに、発表へ向けた指導を充実させる。	発表する機会の紹介・周知を積極的に行う。有望な生徒への声がけや指導を充実させる。	各種コンクールやコンテスト等への参加・出品数の調査	読書感想文の表現方法を選択制に変更した。 多くの生徒が各種発表会やコンテストに挑戦した。	B	○校内読書感想文コンクールへの提出状況が改善された ○ビブリオバトル山形県大会に出場 ○公共図書館と連携し、読書活動の成果を外部に発信できた	
	情報デジタル部	校内のGIGAスクール構想の構築と運用を適切に進め、端末を活用したICT教育の研究を進める	①生徒教職員の端末の管理運用を適切に行う。 ②校内の情報機器の管理・更新など、利用しやすい環境づくりを行う。 ③職員への情報提供や研修を企画・実施する。 ④教務部、進路探究部との連携を密にする。	生徒・職員の評価		B	○職員研修会1回実施。随時情報提供を行った。 ○職員のICT活用に対する意欲が高まり、授業での積極的な活用が見られた。 ○支障なく生徒PC室の更新ができた。(2月利用開始) ▼YELLの通信速度がある程度改善されたが、特別教室では快適な環境ではないため、探究活動に支障が生じている。県への要望をお願いしたい。 ▼心配されていたc1_serverですが、昨年末の故障により、緊急対応中である。県C3serverの活用予定。	
学力向上	進路探究部	授業・講習等の内容充実を図るとともに、ICT機器や学習支援ツールを活用し、「個別最適な学び」に基づく確かな学力を身に付けさせる	①探究型授業への改善を図りながら、平日講習や長期休業講習を実施して、進路希望が達成できる学力の確立を図る ②ICT機器や学習支援ツールの積極的な活用を図る	①模試の成績:各学年設定の目標偏差値以上 ②共通テスト受験率:90%以上 ③国公立大学合格者数:50名以上 ④MARCH合格者数:10名以上	①未 ②共通テスト受験率84% ③総合型・学校推薦型利用の合格者16名(1月18日現在) ④MARCH合格者7名(1月18日現在)	未定	▼進路希望の多様化に伴い、共通テストをそもそも受験しない生徒がおり、目標の見直しも含めた検討が必要である。	② B
	[3年]	進路目標達成に向けて学力を向上させる。	放課後学習会、平日講習、夏冬期講習、二次対策講習について模試分析や生徒の実態に応じた内容を設定し弱点の克服を図る。	共通テスト得点率60%以上が50人以上 国公立大合格者数50名	総合型、学校推薦による合格者16名 60%以上得点18名	B	○総合型、学校推薦による合格者増加 ▼模試分析会の定期的実施	
	[2年]	進路目標を明確にしなが、学力を向上させる	模試分析をふまえた教科指導を充実させる	1月ベネッセ総合学力テスト 平均ss54以上50人以上	11月模試ss54以上21人	B	○進路目標が明確になった生徒が増加 ▼達成に向けた継続的な取り組み	
	[1年]	確かな学力と探究的な学びの基礎力を身に付けさせる。	①考查前学習会や長期休業中時に講習を実施する。 ②スタディサポートや模試の結果分析による。教科指導の検討	1月進研模試でss55以上が55名以上	未	B	○朝テスト、講習で模試への対策ができた。	

○(取り組んでいる)

自ら学ぶ生徒

学習意欲	教務部	学びに向かう姿勢をより主体的なものにし、取り組みの過程及び結果を意識させる	①自己の目標達成に向けての学習計画を立てさせる ②考査の目標点、目標評価を設定させる	自己評価をさせ、生徒による学校評価アンケートで、「達成できた」と6割以上の生徒が答えている	学校評価で、自己目標を「達成できた」「どちらかという達成できた」とした生徒が1年:75.9%、2年:77.8%、3年:80.5%	C		③	B	○
	進路探究部	多様な他者と協働しながら郷土・地域の文化や課題について自ら探究的に学び、地域の振興や活性化に挑戦する力を育成する	生徒が学習や探究活動において得た知識を活用する場を提供し、多様な他者との交流を通して、地域の未来をひらくことにつながる学習活動を実施する	①自らが見つけた課題を探究し、発表することができる ②ルーブリックによる評価段階の向上	①成果発表会ですべての班が発表し、外部のコンクールでも入賞者を出している。 ②全項目で評価段階の向上がみられた。	B	○大学生による探究ヘルプデスクの協力を得て、多くの生徒が探究の過程を高度化させることができた。 ▼大学生や社会人を校内に招き「社会に開かれた教育課程」を実現するための持続可能な仕組みを構築する必要がある。			
	[2年]	探究型学習への主体的な取り組みにより問題発見力と発信力を育む	①思考力・判断力を問う発問や出題を行う ②探究発表におけるグループ発表とそれをもとにした自己評価を充実させる	①思考力・判断力を問う問題の正答率50%以上 ②アンケート調査での肯定的な回答が8割以上	②探究発表に向けた取り組みAB92.6%	A	○成果発表会での充実した発表			
	[1年]	総合的な学習の時間における。探究型学習を通して探究心及び発信力を育成する。	探究活動で得た知識を活用する。場を提供し、様々な交流を通して地域の未来につながる。学習活動(校内外の体験学習など)を実践する。	①自らが見つけた課題を探究し、発表することができる。 ②アンケートの満足度の増加	探究活動に意欲的に取り組めた。93.6%	B	○興味あるテーマを自らが設定し、班員と協力しながら情報の収集や資料の作成を行うことができた。			
習慣づくり 学習課題	教務部	家庭での学習習慣を確立させ、授業の内容をより定着させる	①授業がより効果的に身につくよう、与える課題を工夫し、家庭学習を充実させる。 ②Classiやスタディサプリを有効活用し、個別最適な学習の提供及びその評価方法について研究を進める。	①生徒の授業評価、学校評価アンケートで「習慣がついた」回答が増えたか。 ②Classiやスタディサプリの利用状況とその成果との関連性について分析する。	①課題や予習復習を「毎日行っている」とした生徒の割合、1年 R4:16.1%、R5:10.7%、2年 R4:10.8%、R5:6.7%、3年 R4:50.0%、R5:10.7%	C	▼家庭学習を習慣的に取り組ませるための工夫が必要 ▼スタディサプリについては、システムの改善要求も含めた研究が必要	④	C	○
	情報デジタル部	タブレット端末などを正しく安全に活用できる力を身につけさせる	生徒へのオリエンテーションなどにより、情報セキュリティやメディアリテラシーを身につけさせる。	生徒・職員の評価		B	○学年、生徒部や授業の中で随時情報リテラシー教育を実施した。			
	生徒部	スマートフォンを便利なツールとして有効に正しく活用できる力を身につけさせる	生徒会・学級委員・自治委員を中心に、生徒が主体的に正しい利用につながる取組みを推進できるよう支援する。	学校評価(生徒版)でスマホ使用時間対年度始比10%削減との回答が6割以上	約42%の生徒が10%減	C	○生徒会や委員会での取り組みが意欲的にできた。 ▼スマートの使用時間が全学年で増加傾向。(特に1,2年生)			
	[3年]	家庭での学習習慣を確立させ、主体的に学びに向かう生徒を育成する。	時間を可視化し学習時間を確保するための24時間の使い方を工夫させ、受験生に必要な学習時間を確保させる。	学習時間目標(平日4時間、休日8時間)定	AB68.4%	B	○週日課表を作成させ学習時間を可視化して学習意識の高揚を図った ▼部活動引退後の学習時間増加を図る手立てを検討する必要がある			
	[2年]	学習内容の一層の定着のために家庭学習の習慣化に取り組む	生徒の理解度、進路目標に応じて、質・量を精査した課題を提示する	①家庭学習時間 平日2時間以上、休日3時間以上 ②週末課題提出における提出率70%以上	①普通科2h以上9%	C	○Rプロジェクト(上位者指導)を実施 ▼学習習慣の定着			
	[1年]	家庭での学習習慣を確立させ、授業の内容をより定着させる。	授業内容がより効果的に身につくよう、学習への向き合い方について共に考え、1日の学習時間を確保させる。	学習時間調査で平日の学習が88分以上高い課題提出率の維持 課題未提出者の減少	1学年全生徒の約80%は1時間未満	C	▼家庭学習時間の確保ができていない。			

学習環境	教務部	読書に親しむ環境を整備し、書籍や情報を活用した探究的・主体的な学びを支援する	分掌、教科、学年との連携を密にして、生徒の興味・関心を考慮した図書館資料の充実を図る	学習センターの利用状況の調査 貸出状況の調査	貸出状況 R4:1,531冊 R5:1,970冊 教職員の貸出冊数も増加	B	○山形市立図書館と連携(探究の時間に講師として来ていただいた。市立図書館の事業に参加した)	⑥	B	△(取り組んでいない)
	総務部	危機管理や緊急時対応のマニュアルを再点検し、生徒が安全に学校生活を行える環境整備を図る	①避難訓練(2回/年)を実施する ②施設安全点検を月に1回行い、校舎の危険箇所を早期に発見するとともに備蓄品の点検を行う ③奨学金の申込みの指導を適切に進める	学校評価(生徒・保護者)で肯定的高評価合計が70%以上	アンケート実施が3学年生徒のみではあるが、86.5%が肯定的高評価。	c	▼早急な、危機管理マニュアルの更新			
	総務部	学校生活における生徒・保護者の満足度を高めるために、食堂運営、弁当やパン販売等の充実を図る	①関係者との綿密な情報交換を行う ②生徒や保護者の意見をフィードバックできるような取り組みを適宜実施する	学校評価(生徒・保護者)で肯定的高評価合計が70%以上	未実施	B	▼食堂と弁当の内容については、生徒の声を聴きながら、更に改善を図っていく。			
	情報デジタル部	校務用PC・タブレットや職員アカウントなどの情報に関する業務を的確に行う	ICT機器の管理と情報のセキュリティ管理を充実させる。安全利用の啓蒙を行う。	職員の学校評価		B	○タブレット端末の整備。1年生オリエンテーションを4月実施。 ▼タブレット破損による保険金請求が必要な故障8件。自然故障6件。紛失1件。(1/10現在)※3年生の返却により増加が見込まれる。			
	保健部	環境の美化に貢献できる公共心を育む	①丁寧な清掃活動 (男子トイレ小便器トラップ・黒板周辺・ペランダの強化) ②雑巾がけの徹底(毎週火曜日、複数回可) (砂・埃の拭き取り強化) ③生徒による清掃点検の実施 (生徒保健委員会環境整備班が毎月1回実施)	清掃点検のA評価80%以上 (前年度A評価:57.8% B:31.1% C:11.1%)	A= 79.3% B= 19.3% C= 1.4%	A	○清掃については、清掃点検、環境点検ともに評価は良くなっている。 ○2学期からのゴミの持ち帰り、分別については全体的にかなり定着している。 ▼清掃監督不在時の清掃			
	[3年]	ICT機器や学習マネジメントシステムを活用し、個別最適な学びと協働的な学びを充実させる。	朝学習や授業、探究・進路学習において、classiやgoogleでの配信など、タブレットを最大限活用する。	ICT機器を活用した学習回数の増加		B	○朝学習や課題の配信など有効的に活用した			
	[3年]	主体的に学習環境美化に努め、自他の健康を意識して行動できる生徒を育成する。	①丁寧な清掃活動ができるようにする ②始業時に教室内整頓を確認する	学校評価アンケートで清掃AB9割以上	AB100%	B	○放課後の主体的学習に取り組む生徒が増加した			
	[2年]	個に応じた最適な学習と深い学びの実現に向けて、ICT機器などを活用した学習活動を実践する	朝学習や自宅学習において、ICT機器を利用した個に応じた学び直しを実践させ、基礎学力の定着を図る	①欠点保持者を出さない ②公欠・欠席者に対して学習機会を保障する	②スタディサプリによる取り組みができた	B	○スタディサプリの活用(朝学習・課題・自学)			
	[2年]	公共心や協調性を育て、学習効果を高めるために環境美化を推進する	①丁寧な清掃活動ができるようにする ②始業時に教室内整頓を指導する	清掃点検で評価Aが90%以上	①丁寧な取り組みをしている71%	B	▼ごみの分別			
	[1年]	個に応じた最適な学習と協働的な学びの充実、深い学びの実現へ向け、ICT機器を活用する。	①朝学習の時間を活用し、新聞記事を通して様々な話題に興味関心を持たせる。 ②授業・LHRの時間にICT機器を活用し、生徒の理解を高める。	①生徒への図書平均貸出冊数を3冊以上に維持。 ②アンケートの肯定的回答の増加。	① ? ②93.7%	B	▼新聞の活用を考えたい。 ▼スタディサプリの有効利用 ○授業でプロジェクターが効果的に使用されている。			
[1年]	身の回りの環境に目を向けさせ、それを改善しようとする。公共心を育てる。	①心を使って丁寧な清掃活動ができる。よう指導する。 ②生徒一人ひとりが公共の空間である。ことを認識し、整理整頓に努める。よう指導する。	清掃点検で、「清掃が徹底されている。」のA評価が78%以上	A評価が52.9%	B	○ほとんどの生徒が掃除をしっかりしようとする意識がある。				

目標設定	進路探究部	多様化する入試に対応するために、確かな学力と探究型学習の必要性を理解させ、目標に向かう意識を醸成させる	①進路研修会を実施し、進路意識の高揚を図る ②オープンキャンパスへの積極的な参加を促す ③総合探究の成果を活用し、総合型選抜や学校推薦型選抜を積極的に受験する	①進路研修会のアンケート調査で肯定的な回答が8割以上 ②総合型選抜・学校推薦型選抜活用の国公立大合格者20人以上	①1年:71% 2年:85% 3年:84% ②16名(1月18日現在)	B	○進路研修会は肯定的な評価が多い。 ▼総合型選抜の合格者が少ない。将来目標や進路希望を見据えた探究活動のさらなる充実が必要である。	⑧	B	○
	[3年]	第1志望合格に向け、多様化する試験に対応できる確かな学力と探究的な学びの意識を定着させる。	①受験についての情報を保護者と共有する ②進路ガイダンス・研修会を開催する ③2者面談・3者面談の充実	学校評価アンケートで、進路行事AB8割以上	AB83.6%	A	○各クラス共に保護者との面談を丁寧に実施			
	[2年]	面談・家庭との連携・外部体験活動等あらゆる機会を捉えて進路の明確化を図る	①進路ガイダンス・進路研修会を実施する ②志望理由書を作成させる	①アンケート調査での肯定的な回答が8割以上 ②志望理由書模試の受験率100%	①役立っている77.7%	A	○多くの生徒の進路意識の高揚に役立った ○保護者からも高評価を得た			
	[1年]	進路学習や研修会を通して進路意識を高める。	①学習ガイダンス・進路ガイダンス・進路研修会・山形大学訪問を実施する。 ②大学等の外部の講座への参加を促進する。	①アンケート調査での肯定的な回答が8割以上 ②志望学部学科を具体的に回答した生徒が増加	①67.2%	C				
基本的な生活	生徒部	生徒一人ひとりに規範意識を定着させることで、安心安全な学校環境づくりを推進する	①交通事故0(ゼロ)維持日数を掲示する ②いじめ案件に対し迅速かつ組織的な対応をとる ③頭髪服装検査を定期的実施する ④自転車点検および登下校時の安全指導の充実を図る	交通事故件数1桁。 特別指導事案発生件数前年度比50%減	交通事故発生件数、特別指導事案件数共に前年度比微増	D	○自治委員が中心となって、遅刻指導を行った。 ▼交通事故件数が2桁に増加。更なる対策が必要。	⑨	B	○
	保健部	互いに多様性を認め合い、誰もが安心して学校生活を送れるように支援する	①生徒・保護者・教員が健康相談にアクセスしやすい環境をつくる(相談日を継続して27日に増やし、HPでもわかりやすくPRするとともに幅広い活用を図る) ②当該学年と保健部が連携し、特別な支援を要する生徒(学習支援を含む)へきめ細やかな対応をする	健康相談件数が増えることは、相談につながるスキルや健康に対する意識が向上していると捉えることができる。相談件数の増を「健康相談」活用力の向上としたい	生徒 24 保護者 14 職員 33	B				
	体育部	自己管理ができる生徒を育成する。	①学校を休まないで登校する。 ②文武両道を実践する。	①出席率99.0%	2学期 出席率 97.8%	C	▼1年98.1% ▼2年97.2% ▼3年97.9% 基本的な生活習慣を定着させ、自分の体調を自己管理できる生徒の育成が求められる。			
	[3年]	基本的な生活態度を身につけ、良識ある行動がとれる生徒を育成する。	①私物管理を啓蒙する ②時間管理を指導する	①違反によるスマホ預かり件数10件以内 ②朝学習の定刻開始	①コード紛失1名 ②特定の遅刻数名	B	○体育科が朝回収を行い、違反件数が減少した ▼後期の遅刻者が多かった			
	[2年]	基本的な生活習慣を身につけ、礼儀正しく、主体的行動ができる集団づくりを推進する	①時間管理、あいさつの励行、身だしなみを整える ②スマートフォン使用ルールの遵守	①日々の遅刻者3人以下 ②ルール違反生徒の絶無	・遅刻者は固定化 ・スマホ利用時間減少35%	B	○スマホの利用時間減少 ▼			
	[1年]	成長型ライフスキルを確立させる。	①早寝、早起き、大盛朝ごはんの呼びかけ ②マナーの免許を修得する。 ③自分の価値を守る。力を身につける。(読書)	①学習時間調査、アンケートにおける。読書時間、睡眠時間の確保 ②特別指導案件0 ③スマホより読書(平均貸出3冊以上)	①実施せず ②1件 ③?件	B				
	生徒部	生徒一人ひとりに多様な場を提供し、集団を率いる力・集団に貢献する力の育成を推進する	生徒会各種委員会の自発的活動を支援する	学校評価(生徒版)で6割以上が評価	80%超が評価	B	○コロナ禍ではなくなり、制約が少なくなる中で、創意工夫し各種委員会は活動してくれた			
集団づくり	[3年]	礼儀正しく、知・徳・体が調和し自己を認め合うことができる生徒を育成する。	①集団行動でのルールを尊重させる ②学校行事や生徒会活動への積極的な参加を促す	①重大いじめ案件0件 ②学校評価アンケートで、行事への参加意識AB8割以上	AB86.2%	A	○重大いじめ案件は無かった ○通常の行事が行われ積極的に参加した	⑩	A	○
	[2年]	相手を思いやる心を持ち、自他の価値を認め合い、協調性を育む	①他者との関り方の指導 ②生徒会活動への積極的な参加を促す ③修学旅行の充実	①いじめ案件0件 ②アンケート調査での肯定的な回答が8割以上 ③アンケート調査での肯定的な回答が8割以上	②AB97.8%	B	○各行事での協力意識は向上 ○修学旅行での良識ある行動			
	[1年]	ボランティア活動や部活動、全校応援等の活動を通して「やりきる。」「挑戦する。」「思いやりの心」を育成する。	①各種競技の応援を通じて仲間を本気で応援ができる。「おもいやりの心」とワンチームの意識を高める。 ②感謝心を育める。活動を呼びかける。	①アンケート調査で肯定的な回答が92%以上 ②学校へのお褒めの連絡 5件	①学校行事93.6% 部活動87.3% 肯定的な回答 ②0件	B	○野球応援を通して山形中央高の一員である事を実感できた。			
	生徒部	生徒一人ひとりに多様な場を提供し、集団を率いる力・集団に貢献する力の育成を推進する	生徒会各種委員会の自発的活動を支援する	学校評価(生徒版)で6割以上が評価	80%超が評価	B	○コロナ禍ではなくなり、制約が少なくなる中で、創意工夫し各種委員会は活動してくれた			

人間性豊かな生徒

キャリア教育	進路探究部	知・徳・体の調和のとれた「地域の未来をひらく人材」を育成する	総合的な探究の時間を活用し、外部講師を招いての講演会や地域の大人と関わる機会を複数設けるとともに、進路に関するワークショップを実施する	総合的な探究の時間において実施する授業アンケートで肯定的な回答が8割以上	①1学年 授業評価アンケート全項目で肯定的評価が90%以上 ②2学年 授業評価アンケート全項目で肯定的評価が90%以上	B	○外部講師の講演会についてはアンケートの評価が非常に高い。 ○探究ヘルプデスクについても大学生の来校を心待ちにする生徒が多数いるなど評価が高い。 ▼志望理由書等のワークショップについては、内容を最新のものに見直すなど工夫が必要。 ▼大学生や社会人を校内に招き「社会に開かれた教育課程」を実現するための持続可能な仕組みを構築する必要がある。	⑪	B	○
	体育部	体育の授業を通して、スポーツの振興発展に寄与する生徒を育成する	①新教育課程に向けたシラバスを立案する。 ②体育授業の環境整備を行う。 ③担任・顧問による進路個別相談を実施する。 ④スポーツセミナーを実施する。	①シラバス作成 ②施設面の充実 ③進路指導の充実 ④キャリア育成の自己啓発	①カリキュラムマネジメントの視点を活かした体育と保健の関連を重視した年間指導計画を作成した。 ②体育館の大型扇風機により暑さ対策が図られた。 ③進路確定(77/78名) ④元本校職員であった勝田隆氏(東海大学教授)によるスポーツの多様な価値についての講演を聞くことができた。	B	○全国学校体育研究大会を迎えるにあたり、カリキュラムマネジメントの視点を重視した年間指導計画を作成するとともに系統性を踏まえた単元の配列など工夫改善が進んだ。 ○進路では総合型選抜による希望進路実現を果たす生徒が増えた。 ▼第一志望の進路目標が達成されるように、早い段階での面談と準備のための指導が必要である。			
	[3年]	自ら探究的に粘り強く学び、将来の夢や目標と地域の振興や活性化に挑戦できる生徒を育成する。	キャリア教育総合実践プログラムの集大成として、早期に進路目標を確定させ、生徒が将来のビジョンを持ちながら進路実現に挑戦できるよう面談を実施する。	進路決定100%		B	▼探究学習と進路希望を可能な限り繋げる			
	[2年]	校内外の多様な活動への参加を促し、社会人としての資質を涵養する	総合的な探究の時間やNIE学習等を活用したキャリア教育を実践する	アンケート調査での肯定的な回答が8割以上	多忙な高校生活のため校外行事に参加する時間がとれない。	B	○個人的にみると地域活動やボランティア活動に参加している生徒も見られず。			
	[1年]	社会と自分の関わり方を考えさせる。	各種適性検査や進路研修会を通してキャリア教育を実施する。	検査結果や進路行事のアンケート調査で、役に立ったという回答が8割以上						
社会貢献	生徒部	豊かな人間性や社会性を育むために、部活動単位でのボランティア活動を推進する	各部にボランティア実施計画書・報告書を提出させ、具体的・実効的なボランティア活動の充実を図る。	学校評価(生徒版)で6割以上が評価		C	○能登半島地震への支援を生徒会が中心となって行う予定。 ▼校内におけるボランティア活動以外に生徒会執行部と連携し、校外のボランティアを推奨していく。	⑫	C	△
	体育部	規範意識を持ち、協調性とおもいやりのある生徒を育成する	①各部でボランティア計画を作成する。 ②体育科集会を通じた規範意識を涵養する。	①ボランティアの実施状況 ②問題行動の件数	②問題行動 3件5名	C	○部活動単位での除雪など、ボランティア活動が実施されている。 ▼性に関する問題行動が2件発生した。スマートフォンの誤った使用に端を発した案件であり、スマホの正しい使用について啓発、指導を行っていく必要がある。			

地域連携 保護者連携	総務部	学校の魅力を校外へ発信できるようにする	①HPと学校パンフレットの刷新・充実を図り、学校の魅力を地域や小中学生に発信する ②学校だより、PTAだより(年2回発行)を第六学区の回覧板に盛り込んでいただき、学校の様子が地域の幅広い年代層の方々にも伝わるようにする	学校評議員及び保護者の学校評価で肯定的評価が70%以上	①学校HPを見る機会が、学年が上がるにつれて増えていることがアンケートから分かった。評価は低調。	B	○パンフレットのリニューアルは県計画委のご協力により実施できた。 ▼HPをリアルタイムに更新することが必須課題。	⑬	B	
	総務部	在学生への社会的支援と家庭との連携に寄与する	奨学金制度を随時案内する	奨学金制度案内についての保護者からの苦情0件	0件であった。	B				
	総務部	PTA活動を活性化し、学校や生徒と保護者の連携を深める	①中央祭でのPTA出店を企画・実施し、PTA活動が生徒に見える場面を設定する ②一声運動を実施し、学校の様子を保護者に見ていただき、あいさつの励行を行う	①一声運動参加80%以上 ②学校評価(保護者)で肯定的評価が70%以上	①3日間平均で68.4%の参加率を達成した。					
	情報デジタル部	家庭と連携したICTの活用を行う	①さくら連絡網の生徒、保護者の運用 ②Chromebookの家庭での利用に加え、職員への援助を適切に行う。	生徒・職員の評価 さくら連絡網の保護者登録率100%	登録者数793 (生:714,教:79) 利用者数787 (生:711,教:76)	B	○さくら連絡網年間を通した運用ができた。 [生徒未登録2(内休学1)・職員未登録2][実績:通常メッセージ322件。アンケート4] ○端末の更新に伴うアカウント更新については、副担任・担任の先生に対応を依頼した。			
	[3年]	学校と家庭の連携を図り、互いに協働しながら生徒の人格形成や進路実現に取り組む。	①9回の学年通信発行で家庭への情報発信をする。 ②保護者を対象とした進路研修会を開催する。	学校評価アンケートで、連携AB8割以上	AB83.6%	A	○学年通信やclassiでの情報発信はこまめに実施した			
	[2年]	学校・学年からの連絡等を迅速正確に伝え、諸行事への多数の参加を推進し、共通理解を持って生徒指導に取り組む	学年の活動状況を学年通信に掲載し、積極的に情報発信する	①PTA総会・進路研修会出席率 70%以上 ②学校評価(生徒版、保護者版)AB 70%以上	①PTA総会出席率43%②AB生徒85%、保護者96.3%	A	○学年通信、ONETEAMが保護者に読まれている			
[1年]	社会と自分の関わり方を考えさせる。	各種適性検査や進路研修会を通してキャリア教育を実施する。	検査結果や進路行事のアンケート調査で、役に立ったという回答が8割以上	①学年PTA出席率 129/241(53.5%) ②学校評価保護者 回答率167/241(69%)	B		⑭	A		

心身を磨く逞しい生徒

学習時間	進路探究部	学習時間・学習スケジュールを自己管理できる生徒を育成する	学習時間調査を適宜実施・分析し、定期考査や模擬試験の結果との関連性を把握した上で、生徒の自律的な学習管理を支援する	平日の学習時間：学年＋1時間以上	学校実施の学習時間調査の回答数が少ないために、正確な数字の把握が困難。	C	▼次年度以降の実施も含めた検討が必要。	⑮	C	○
	[3年]	学習活動とスポーツ・文化活動を両立させるために必要な効果的な家庭学習の在り方について指導し、自立した生徒を育成する。	定期的な学習時間調査を実施し、面談や全体指導で生徒の学習状況を把握し、学習時間の確保を指導する。	平日学習時間3時間以上、休日4時間以上(部活がある時期)		B	▼部活動引退後の学習時間増加を図る手立てを検討する必要がある			
	[1年]	タイムマネジメントを工夫する。よい指導し、学習時間確保の土台をつくる。	学習時間調査による。分析をもとに、消費の時間を少なくし、投資の時間に導く指導	食事、睡眠時間が一定で、読書時間がある。	平日に2時間以上している者は1割に満たない	C				
健康管理	保健部	主体的に自己の健康管理をし、健康で安全に暮らすための意識の向上を図る	①健康診断を実施し、その後の有所見者に対しての受診を徹底する ②生と性に関する講演会を実施する ③コロナ禍で身につけた健康管理意識の継続を図る ④体育科職員や顧問と連携し、部活動での安全対策を行う ⑤「ほけんしつより」や保健委員会の掲示物での啓発活動を行う	①有所見者の受診状況の向上(昨年度：視力38.7% 歯科8%) ②講演会後のアンケート役に立つ85%以上(昨年度：90%以上) ③日常的な健康セルフチェック ④夏季の部活動での熱中症対策(毎活動日) ⑤年間8回以上「ほけんしつより」発行	①視力 26.9% 歯科 8.6% ②性 89.7%	B		⑯	B	○
	保健部	心身ともに明るく健康な生活を送れるように支援する	生徒保健委員会の研究活動を支援する ①健康や安全についての理解を深め、各自がそれぞれの心身の健康について見つめる機会とする。 ②具体的な対応について理解を深め、主体的に心身の健康管理をするための知識や力を養う。	研究過程で実施するアンケート調査の結果		B				
	[3年]	生徒自ら安全・健康に留意し、主体的に健康管理ができるよう自己管理能力を育成する。	①進路実現や将来の社会生活に向けて、欠席が少なくなるよう健康管理を促す。 ②事故や怪我がないように健康観察による生徒の健康状態の把握する	①出席率99% ②有所見者の平均受診率50%以上	①97%台 ②26.1%	C	▼コロナ禍からの流れで安易な欠席が多く、出席率の低下に繋がっている			
	[2年]	健康で安全な学校生活を送るために主体的な自己管理能力の向上を推進する	①感染症予防対策を主として、健康観察による生徒の健康状態を把握する ②食事・睡眠の重要性を伝え、規則正しい生活の習慣化を徹底する	①健康観察の未入力者減少 ②出席率99%以上	1学期95.9% 2学期97.3%	B	▼体調管理			
	[1年]	健康で安全に暮らすために、主体的に自己の健康管理をする。意識を向上させる。	①健康診断・各種検査の実施後の受診を呼びかける。 ②事故や怪我がないように留意させる。 ③感染症対策の徹底させる。	①有所見者の受診率は歯科55%以上、視力55%以上 ②振興センター災害給付申請件数39件以下	歯科16.7% 視力35.1% 申請件数16件	C				
	生徒会	生徒部	挨拶運動や全校応援を通して、山形中央高校への帰属意識の涵養を図る	①生徒会・学級委員会・自治員によるあいさつ運動を実施する ②チーム中央の一体感を味わえるような壮行式や全校応援における充実した応援体制をとる	学校評価(生徒版)で6割以上が評価		B			
部活動	生徒部	部活動の指導を通して、競技力のみならず人間力の向上を図る	部活動目標シートの作成と掲示を行う	学校評価(生徒版)で6割以上が評価	90%超が評価	A	○部活動所属の多くの生徒が、積極的かつ意欲的に取組んだ。 ▼普通科の生徒が活動できる部活の整備が必要			
	体育部	全国大会で勝負できる力を持った生徒を育成する	①各部の活動をより一層充実させる ②施設の整備(人工芝のグラウンド整備等)を推進する ③優秀な生徒を確保するための手立てを検討する	①県大会優勝数10 ②全国大会出場数150(団体5) (夏季100・冬季30) ③全国大会入賞数30(団体1)(夏季10・冬季20)	①県大会優勝数12 ②全国大会出場数(団体12) (夏季146・冬季6) ③全国大会入賞数(団体1)(夏季6・冬季) ※いずれも1/17現在	B	○野球U18日本代表に選出された武田陸政をはじめ、多くの生徒が全国大会において活躍してくれた。 ▼全国的に競技力の私高公低の傾向が強まっている。優秀な生徒を確保するためにも、本校の体育施設設備の充実喫緊の課題であり、引き続き県に要望を行っていく。	⑱	A	○

学校経営	健康管理	管理職	職員の健康状態に留意し、休暇を取りやすい職場環境を整備するとともに、職員が自ら健康維持増進に努めるよう喚起する	①夏季特休・リフレッシュ特休・リフレッシュ年取得の推進、代休・振休の履行を徹底する ②健康診断後の再検査・精密検査を早期に実施してもらう ③職員の業務負担に目を配り、業務量の平準化に努める	①年休・代休・振休の取得環境についての職員アンケート昨年比 ②再検・精検100%の実施 ③一斉退職日の実施状況 ④年休5日以上取得者率88%以上(4月～12月)	①85.3%→77.5% ②79.5%→46.7% ③10日中3回達成(30%) ④81.0%→90.2%	C	▼再検率大幅ダウン。年度内の再検査実施をお願いします。 ▼年休取得環境をさらに整える。平均11.9日(R410.6日)	⑱	C	
	専門性	管理職	教師に求められる指導力の向上を図る	①教員の指導力を向上させるために研究授業や校内研修会を実施する ②校外研修会に積極的に派遣し、幅広い情報を職員間で共有する	①ICT活用の校内研修会を3回行う。 ②職員アンケートによる自己評価	①Googleアプリを活用研修会 ②研修計画実施 79.4%→82.5% 指導法工夫・改善 82.4%→82.5%	B	○研修会を実施し、一歩進んだGoogleの使い方を学んだ。授業での活用を進めていただきたい。	⑳	B	
	同僚性	管理職	協動的な働き方を推進し、同僚性を高める	①部長主任に働きかけ、分掌内で協動的な働き方を促進する ②退校時間が連日遅い職員に声掛けや面接を行い、業務の平準化が図れるよう部長主任と調整を行う	職員アンケートによる自己評価	業務の平準化 50.0%→60.0% 同僚性の確立 76.5%→60.0%	C	▼数値低いまま、平準化が進んでいない。	㉑	C	

学校関係者評価委員の方々からのいただいたご意見・ご提言・ご要望等

- ①保護者の厳しい意見が見られる。
- ②トイレが旧式で時間で水が流れるシステムになっているので、改修は必要だと感じた。
- ③生徒へのアンケート結果で「本校に入学してよかった」という回答が多かったのはとても良い。
- ④保護者への「学校生活で困ったことや不安なときの体制ができています」という回答も多くて良い。
- ⑤探究活動も活発になっているようだが、学習時間が少なすぎるのが課題。
- ⑥運動部を中心に活躍が目覚ましい。しかし、サッカー部は明正高校が全国に行った。明正高校はグラウンドを新しく人工芝にしたりして、生徒のモチベーションを上げている。本校も施設を新しくしてモチベーションを上げたらどうか。
- ⑦弓道場が古い中での全国制覇はすごいが、設備をもっとよくしてあげたい。小学校の改築のときに県は当初、一部改築の予算しか出さず、PTAや同窓会、後援会と連携して10年話し合いをし、全校建て直しが決まった。根気よく県に訴え続けることも必要。
- ⑧普通科の探究は部活動化してもっと活躍させることはできないか。

いただきましたご意見・ご提言につきましては検討し、次年度の指導に活かしていきたいと考えております。ありがとうございました。